

進行胃癌に対する 2 期的手術戦略の低侵襲性に関する検討

## 1. 研究の対象

当施設の腹腔鏡またはロボット支援下の幽門側胃切除症例のうち、2021/1 月～2025/7 月に 2 期的手術を行った5例と、2023/4 月～2025/7 月に 1 期的手術を行った 50 例。

## 2. 研究の背景・目的・方法・期間

【背景】進行胃癌に対する薬物療法後の胃切除は腫瘍や周囲組織の浮腫および線維化により剥離操作が困難となり、手術侵襲が増大するため Controversial で、術後合併症や在院日数延長が懸念され、臨床的課題となっている。一方、幽門狭窄を伴う症例では、経口摂取の制限から栄養状態が低下し PS や全身状態の悪化につながるため、初回バイパス手術を行い、経口摂取を回復させたくうえで薬物療法を行い、その後、根治切除を行う、2 期的戦略が有効な選択肢となり得る。

【目的】進行胃癌に対する薬物療法後の胃切除術における、2 期的戦略の低侵襲性を明らかにする。

【方法】患者背景には年齢・性別・PS・幽門狭窄の有無などを含めて解析、評価項目は手術時間、出血量、術後炎症反応 CRPmax (術後最高値) とし、両群の短期成績を比較する

【期間】倫理委員会承認後 ～ 2027 年 12 月 31 日

## 3. 研究に用いる資料・情報の種類

カルテ情報

## 4. 個人情報の取扱いについて

この調査・研究では個人情報・個人識別符号・要配慮個人情報を使用する。

すべてのデータは、実施担当代表者(氏名)が、外部ネットワークと切り離されたパスワードロックのかかるパソコン上に管理・保管する。仮名化したデータは、外部ネットワークから切り離されたパソコン上に、削除情報等とは別に管理・保管する。

## 5. 本研究に用いた情報の二次利用、外部への試料・情報の提供について

他の医療機関に提供する可能性はない。

## 6. 研究成果の公表について

本研究の結果は学会発表、学術雑誌およびデータベースなどで公表します。

研究結果および報告内容に関しては、仮名化し個人情報特定できないよう十分配慮します。

## 7. 研究組織

研究責任者

近江八幡市立総合医療センター 診療部 外科 長田寛之

研究担当者

近江八幡市立総合医療センター 診療部 外科 中野且敬 内藤慶 竹本健一 小城正大 有村勇哉

## 8. お問い合わせについて

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書等の資料を入手・閲覧することが出来ます。

また、本研究対象に該当するかたで、本調査へのご了承が得られない場合（診療録を見られたくないなど）は、その求めに応じて対象者の方の試料・情報を本研究に利用することについて停止することができます。停止を求められる場合には、2025年10月までに下記の連絡先までお申し出ください。なお、了承の有無にかかわらず、患者さんに不利益が生じることはありません。

【照会先および研究に了承いただけない場合の連絡先】

近江八幡市立総合医療センター 診療部 外科 長田寛之

〒523-0082 滋賀県近江八幡市土田町 1379 番地

TELL 0748-33-3151